

科目名 (英語表記)	コンクリート構造特論 (Advanced Concrete Structure)						ポートフォリオ
学年・専攻	2年・建築学専攻		単位・期間	選択2単位・後期(自己学習時間60時間)		<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員	浅野 浩平	連絡先	A科棟3階 浅野研究室 (A-304)	オフィスア ワ	月曜日16:20以降	【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。	
【授業目的】 複合構造として鉄筋コンクリート構造に焦点を当て、鉄筋コンクリート構造の基礎知識から特殊セメント材料である繊維補強セメント複合材料まで、材料の力学的特性について学習する						【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。	
【履修上の注意】 レポートが課された場合、提出期限までに提出すること 課題レポートを通じて理解を深めること						【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。	
【事前に行う準備学習や自己学習】 RC構造学、構造演習および建築材料で学んだ知識を予め準備学習しておくこと 課題レポートとは別に適宜、小レポートを提出することによって、自己学習の評価を行う。						【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。	
【達成目標】 1) 中心圧縮および曲げを受けるRC部材の挙動の機構を理解すること 2) 鉄筋とコンクリートの付着性状の基礎知識を理解すること 3) 繊維補強セメント複合材料の基礎知識を知ること						ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。	
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)	ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。			
評価到達目標項目1	RC柱の挙動を理論的に説明でき、数値計算によってシミュレーションが行える	RC柱の挙動を理論的に説明することができる	RC柱の力学的基礎知識を知っている	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目2	RC梁の挙動を理論的に説明でき、数値計算によってシミュレーションが行える	RC梁の挙動を理論的に説明することができる	RC梁の力学的基礎知識を知っている	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目3	特殊なセメント系材料の挙動を理論的に説明でき、数値計算によってシミュレーションが行える	特殊なセメント系材料について基礎知識を知っている	特殊なセメント系材料の概要を説明することができる	【自己評価】 A ・ B ・ C			
				【自己評価】 A ・ B ・ C			
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法 指標と評価割合	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
総合評価割合			100				100
知識の基本的な理解			50				50
思考・推論・創造への適応力			40				40
汎用的技能			10				10
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習経験と創造的思考力							
【教科書】 指定なし(適宜、配布資料)							
【参考資料】 日本建築学会 RC規準 林静雄 編著、初めての鉄筋コンクリート構造(市ヶ谷出版) 嶋津孝之ほか著、新しい鉄筋コンクリート構造(森北出版)							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】 (c),(d)			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B)			

